

# 令和3年度 “ふじのくに”<sup>しみん</sup>士民協働 施策レビュー 改善提案への対応状況

## 1 基本情報

|        |                                      |       |              |
|--------|--------------------------------------|-------|--------------|
| 政策     | 政策8 世界の人々との交流の拡大                     |       |              |
| 政策の柱   | 8-2 地域外交の深化と通商の実践                    |       |              |
| 議論した施策 | (1) 地域外交の推進<br>(2) 世界の様々な国・地域との多様な交流 |       |              |
| 実施日/班名 | 7月10日(土) 第3班                         | 担当部局名 | 知事直轄組織 地域外交局 |

## 2 施策推進の視点・主な取組

### 👉 **視点1** 人をつくり、富をつくり、平和を築く地域外交の展開

- ① 重点6か国・地域を中心とした相互にメリットのある交流の推進

### 👉 **視点2** 社会変容を踏まえた地域外交の展開

- ② コロナ禍及びコロナ後を見据えた交流の推進

## 3 現状・課題

### 【現状・課題1】

- 地域外交とは、国や地域による文化の違いを理解して、友好的互惠・互助の精神に基づき自立した相互の信頼関係を築く地域レベルの国際交流・国際協力のことです。
- 富士山静岡空港の活用と友好提携先等との関係強化を通じた、教育、文化、経済、スポーツ、観光などの幅広い分野で交流を促進します。

### 【現状・課題2】

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、対面による交流は中止や延期を余儀なくされています。
- 重点6か国・地域を中心とした関係の維持・強化のため、社会変容に対応した地域外交を推進します。

## 4 コーディネーター取りまとめコメント（コーディネーターが議論を総括して取りまとめ）

幼少期から**国際文化に触れる機会を増やす**<sup>①</sup>など、人と人との交流を促進させることにより、県民の国際感覚を醸成する。

このためには、**静岡県民としてのアイデンティティをしっかりと持つこと**<sup>②</sup>が重要であり、また、国際化に対応できる人材の育成も進める必要がある。

通商を拡大するという点においては、**県内の名産品・特産品をしっかりとPR**<sup>③</sup>した上で、静岡ブランド、富士山ブランドとして、戦略的に海外に発信することが重要である。また、**インバウンド、アウトバウンド双方向を視野に観光交流を進める**<sup>④</sup>必要がある。

国際交流に留まらず、地域外交の施策に対する住民の理解を得るため、**日常的な働きかけ**<sup>⑤</sup>が必要である。

## 5 施策の改善提案と対応状況

| 改善提案  | 対応状況   |
|---|--|
| <p>①県民の国際感覚を醸成し、本県の地域外交の中核を担う人材の育成に繋げるためには、ネイティブ職員の活用により幼少期から海外の文化を学ぶ機会を提供するほか、青少年の活躍の場や海外との交流の機会を増やす必要がある。</p> | <p>現在の取組としましては、多文化共生施策との連携により、県内の小中高生を対象としたネイティブ職員による出前教室を実施することで県民の国際感覚の醸成に努めており、今後も継続して実施していきます。また、モンゴルや台湾などの高校生を対象とした交流に、より多くの学校が参加できるよう努めるほか、韓国済州青少年フォーラムへの参加支援を図り、青少年が活躍する場を創出します。</p> <p>2022年度は新規取組として「地域外交展開事業費」を拡充し、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーづくりの一環として、モンゴル国立馬頭琴楽団によるコンサートを開催するなど、海外の文化を学ぶ機会を創出し、県民の国際感覚の醸成に努めます。</p>   |
| <p>②静岡県民としてのアイデンティティを持つためには、行政として国際感覚を身につける機会を提供することで、県民が海外の国や地域との文化の違いを正しく認識し、改めて本県の魅力を理解する必要がある。</p>          | <p>現在の取組としましては、中国・浙江省や韓国・忠清南道、モンゴル国ドルノゴビ県といった、友好提携先との分野別交流や青少年・民間団体の交流支援に取り組むことで国際感覚を身につける機会を提供しており、今後も継続して取り組んでいきます。</p> <p>2022年度は、新規取組として「静岡県・浙江省友好提携40周年記念事業費」により、県民の皆様や団体が医療・介護や環境など、様々な分野で浙江省との交流事業に参加できるよう、更なる国際交流の機会創出に努め、県民が海外の国や地域との文化の違いを認識するとともに、改めて本県の魅力を知ること、静岡県民のアイデンティティを獲得する機会を創出していきます。</p>                    |
| <p>③本県ならではの特産品等のブランド力の強化のためには、海外駐在員事務所の活用等により戦略的に海外にアピールする必要がある。</p>  | <p>現在の取組としましては、海外駐在員事務所や、現地の国・地域の専門家と連携して県産品の販路拡大を行う「ふじのくに通商エキスパート」を設置すること等により特産品等のブランド力強化に努め、海外での県産品の認知度向上や輸出拡大に取り組んでいます。</p> <p>今後も、これらの取組を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により博覧会等に参加できない県内企業の製品をアピールするため、会場にサンプル商品を展示することで、県内企業関係者が現地企業関係者とオンラインで商談する際、駐在員が現地でサンプル商品の補足説明を行うなど、現地に駐在員を置く利点を最大限に活かし、戦略的に海外への情報発信や県内企業の支援を行います。</p> |
| <p>④インバウンド・アウトバウンドの双方向を視野に入れた観光交流のためには、重点6カ国・地域を中心に更なる友好関係を築き、相互にメリットのある交流を進める必要がある。</p>                        | <p>現在の取組としましては、「友好的互恵・互助に基づく善隣外交」の精神に基づき、観光をはじめ、経済や文化、防災など様々な分野で、重点6カ国・地域などと、対面とオンラインの併用によるツイン外交により、相互にメリットのある地域外交を推進しており、今後もさらなる友好的な関係の構築に努めていきます。</p> <p>2022年度は、新規取組としてオンラインを活用した中国・浙江省との友好提携40周年記念事業を通じて友好関係を深めるとともに、杭州アジア競技大会でのPRにより、新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた、インバウンド・アウトバウンドの促進につなげていきます。</p>                                  |

⑤県民が地域外交に対する理解を更に深めるには、県が実施した施策やそれにより得られた成果を分かりやすく広報する必要がある。

現在の取組としましては、新型コロナウイルス感染症が拡大していることを踏まえ、各国・地域の効果的、先進的な取組事例を紹介する地域外交チャンネルの配信や海外トピックスの発行、現地進出企業や県内観光事業者等を対象としたウェブセミナーの開催により、海外を訪問できない県民の皆様に役立つ情報の収集、発信に取り組んでおり、今後も継続して取り組みます。

2022年度は、地域外交の考え方や方向性を示す「静岡県地域外交基本方針」の改訂初年度に当たり、本方針の中で、これまでに県が取り組んだ地域外交の成果をグラフ等により分かりやすく説明しています。本方針について広く周知を図ることで、地域外交への理解が一層深まるように努めていきます。